

前年に放映され、テレビ大賞を受賞したシリーズの続編。
昔気質で怒りっぽいくせに涙もろい「日本の父」貫太郎とその家族が
織りなす下町人情コメディ。続編では長男が婦女暴行未遂で執行猶予中
という身の上で、それを取り巻く家族の愛と苦しみを明るく描いた。
向田が乳癌の告知を受け、放送中の10月に入院・手術となった。
向田の依頼により最終回は久世光彦が執筆した（ペンネーム林紫乃）。

- ◎寺内貫太郎一家 <A-1>
サンケイ出版 1975.4
(サンケイノベルス)
装幀・イラストレーション 横尾忠則
1974年1月から放送されたテレビドラマの小説版。
昭和初期の頑固一徹な父親像が懐かしい。

- ◎寺内貫太郎一家 <A-20>
新潮社 1983.1
装幀・イラストレーション 山藤章二

- ◎寺内貫太郎一家 <A-21>
新潮社 1983.3
(新潮文庫)
イラストレーション 山藤章二



- ◎寺内貫太郎一家 前篇, 後篇 <A-43, 44>
大和書房 1987.12-1988.1 (向田邦子TV作品集 10, 11)



◎図書 ■シナリオ □自筆原稿

実践女子大学図書館ミニ展示 2007年11月10日～

向田邦子の東京下町散歩

～ 人形町・谷中 ～



向田邦子は下町を愛した。
エッセイに書かれた人形町、そして「寺内貫太郎一家」
の舞台となった谷中には、当時「時間ですよ」の銭湯のモデルがある。

【 人 形 町 】

- ◎女の人差し指 「人形町に江戸の名残を訪ねて」(文春文庫) 文藝春秋 1985.7
◎向田邦子暮しの愉しみ 「人形町 小半日のゼイタク旅行」 新潮社 2003.6
◎向田邦子熱 「人形町に向田邦子の名残を訪ねて」 向田邦子研究会著
いそっぷ社 1998.12 人形町をイラスト入りで紹介。
◎フェミナス「向田邦子を歩く 日本橋～人形町」2007年11・12月号
小田急 2007.11 向田文庫の写真も掲載されている。

【 谷 中 ～ 時間ですよ ～ 】

昭和初期の銭湯「松の湯」が舞台。銭湯のモデルは
台東区谷中の、二百年続いた旧「柏湯」。
1993年に改装され、現在は「スカイ・ザ・バスハウス」
というアートギャラリーになっている。(変遷は後述)

- ◎ 向田邦子テレビドラマ全仕事
東京ニュース通信社 1994.10



- ◎女の人差し指 「ライター泣かせ」 文藝春秋 1982.8
“ドラマ書きにとって有難くないことの一つに世の中が早口になったこと
がある。八年前「七人の孫」ではたしか原稿用紙で六十五枚で充分だった。
ところが「時間ですよ」では八十枚書かなくては足りないのである。”

□ライター泣かせ 自筆原稿

■時間ですよ 昭和元年 <B-34> シナリオ
TBS (東京放送) 1974. 10. 16~1975. 4. 9 (全 26 回)
4 冊 (第 15, 16, 21, 23 回放送分のみ) 26m
脚本: 向田邦子ほか 演出: 久世光彦、悠木千帆 (樹木希林)
提供: トヨタ自動車、花王石鹸

◎昭和幻燈館「女の紅差し指」 久世光彦著 講談社 1987. 12
“「時間ですよ・昭和元年」というホームドラマをやったとき、向田さんが一番喜んだのは、死語、半死語を大威張りで使えることであった。
・・・舞台は下町の風呂屋である。落語を愛し新生新派の好きだった向田邦子にしてみれば、このお膳立ては何よりも言葉の宝庫だったのである”
*シナリオに使われている死語・半死語
番台、髪結いさん、チンドン屋、お針、ツギハギ、しもた屋、はばかり(手洗い) など

銭湯から芝居小屋、そしてギャラリーへ

銭湯が改装される前に、劇団員が住み込みで内部を改装し、芝居小屋になり上演される。
(2007 年 10 月 25 日 東京新聞 朝刊より)

↓
上演期間: 1992 年 6 月 14 日~28 日
劇団第七病棟 (主宰: 石橋蓮司)
「オルゴールの墓」

↓
1993 年 改装されて ギャラリー「スカイ・ザ・バスハウス」となる。
寺内貫太郎一家のタイトル・デザインを担当し、またドラマの中でも飲み客で出演していた横尾忠則氏も、ここで個展を開いた。

◎東京を歩く 「根津から谷中・千駄木へ」(アイじゃぱん 15)
JTB 2004. 7 「スカイ・ザ・バスハウス」の紹介あり。

CD「TBS 水曜劇場の時間ですよ」 ソニー・ミュージックダレクト 2006. 7
ドラマ黄金時代のヒット・ソング・コレクション~
「時間ですよ」「寺内貫太郎一家」「ムー一族」など、1970 年~1979 年
放送された TBS 水曜劇場のテーマソングを収録。

DVD「時間ですよ 1971」 製作: TBS 発売: TBS・KANOX

【 谷 中 ~ 寺 内 貫 太 郎 一 家 ~ 】

ドラマの舞台は谷中。石屋のモデルは石材店「石六」。
当時、向田邦子や久世光彦らスタッフが取材にきている。

◎向田邦子の全ドラマ 謎をめぐる 12 章「向田邦子の東京物語」
小林竜雄著 徳間書店 1996. 3
著者が石六を取材。当時、先代が向田邦子や久世光彦氏らスタッフと対応、1 時間ほど取材していったとのこと。
木札もドラマのモデルになる。

DVD「向田邦子の東京物語」 製作: TBS (非売品)
風吹ジュンがリポーターになったドキュメンタリー。
谷中「石六」を訪問。



■冠婚葬祭屋 シナリオ
NET・東映 1972 年 13 回連続 (午後 8:00~8:56)
[第 5 話]「死んでたまるか(仮題)」
脚本 (第 5 話のみ): 向田邦子
監督/瀬川昌治、出演/進藤英太郎・大信田礼子他。
【内容】財力も後ろ楯もない大学講師の息子がサラリーマンを辞め、冠婚葬祭のプロデュースを成功させる物語。
* 実際放映された題名:「死んでたまるかいいですよ」

■寺内貫太郎一家 三幕 芝居シナリオ
原作: 向田邦子 脚色: 金子成人 演出: 久世光彦
上演: 1999. 1. 31~2. 26
場所: 新橋演舞場
出演: 小林亜星、加藤治子、西条秀樹、樹木希林、浅田美代子ほか

■寺内貫太郎一家 2 <B-35> シナリオ
TBS (東京放送) 1975. 4. 16~11. 5 (全 30 回)
3 冊 (第 17, 18, 22 回放送分のみ) 26cm
脚本: 向田邦子 演出: 久世光彦、服部晴治
出演: 小林亜星、加藤治子、谷隼人、風吹ジュン、樹木希林ほか